

オートオークション事業

## さらなる利便性の向上により 当社のブランド力を向上させます。

株式会社ユー・エス・エス 常務取締役／オークション運営本部長

### 池田 浩照

PROFILE:

1984年の入社後、オークション会場の新規開設やシステム開発に携わる。2006年常務取締役に就任後、システム本部長や会場長を歴任。2022年オークション運営本部長に就任し現在に至る。



### 当期の概況

2022年度における国内中古車登録台数は、同年度前半に新車販売台数が大きく減少した影響で下取りにより発生する中古車が減少したことなどから、6,293千台(前年度比4.2%減)となりました<sup>※</sup>。このような状況下でも、当社のオートオークションにおける出品台数は2,958千台(前年度比8.3%増)、成約台数は1,863千台(前年度比4.3%増)となりました。この結果、オートオークションのセグメントは、外部顧客に対する売上高69,304百万円(前年度比6.9%増)、営業利益42,267百万円(前年度比5.1%増)となり、増収増益を達成しました。

当社のオートオークションは良質な中古車が集まる傾向にあり、それらを目当てに買い手が集まり高値で落札されるという好循環ができています。これは公平・公正なオートオークションの実現と、利便性の向上に取り組んできた当社の姿勢が、お客様から評価をいただいている証だと捉えています。特に2022年度は、中古車の供給が減少

する中でも当社のオートオークションに売り手と買い手が集まるという動きが顕著に見られました。これは、業界における当社のブランド力の現れだと自負しています。

そして、こうした競争優位性を維持・向上していくためには、将来的に予想される出品台数の増加に対応する必要があると考え、車両検査員の早期育成を目指す研修制度を新設しました。2022年度には、これまで新入社員への研修を行ってきた東京会場や名古屋会場から教育担当者を選抜し、従来であればOJTで行う内容を体系化して8か月の研修プログラムを作成しました(詳細はP52参照)。新たな研修制度は2023年度から適用され、13名の新入社員が順調に知識・技術を習得しています。さらに、来年度からは、キャリア採用社員向けの研修プログラムの実施も検討しています。

<sup>※</sup> 一般社団法人日本自動車販売協会連合会、  
一般社団法人全国軽自動車協会連合会調べ

### 今後の戦略

新車販売台数は半導体不足の緩和により、徐々に回復しています。2023年度の連結業績見通しについては、オートオークションにおける出品台数3,000千台(前年度比1.4%増)、成約台数1,880千台(前年度比0.9%増)、成約率62.7%(前年度実績63.0%)を見込んでいます。

国内トップシェアを誇る当社は、精度の高い車両検査と

公平・公正なセリを行うことで、健全な中古車流通に貢献しております。当社会場には毎週6万台の車両が出品されます。これを会員の“共有在庫”と捉え、中古車販売店の商売を活性化するようなサービスの展開も視野に入れていきます。

## SWOT分析

強み Strength	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界内最大の会員数・出品台数</li> <li>● 高度な車両検査技術</li> <li>● 公平かつ公正な取引基準</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高水準な成約車両単価</li> <li>● 業界に先駆けたDXの取り組み</li> </ul>
弱み Weakness	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中古車流通経路が多様化することによる取り扱い台数の減少</li> <li>● グループ会社から調達する出品台数が少ない</li> <li>● 管理職、車両検査員などの人材不足</li> </ul>	
機会 Opportunity	<ul style="list-style-type: none"> <li>● EV車への買い替え需要の増加</li> </ul>	
脅威 Threat	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中古車販売店の減少</li> <li>● MaaS(Mobility as a Service)による所有からサービスへの価値観の変化</li> <li>● コネクテッド技術を利用した自動車メーカーによる中古車流通の囲い込み</li> </ul>	

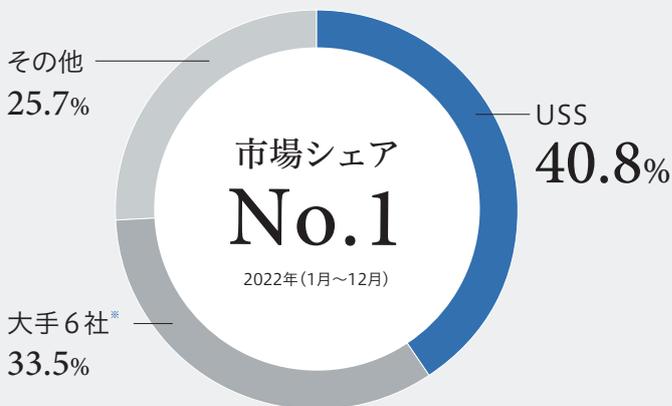
## TOPICS

### EV車に対応した車両検査体制の確立を目指し 評価基準の設定、バッテリー診断装置の開発に取り組む

当社では、EV車における車両検査体制の整備を進めています。EV車の車体構造はガソリン車とは異なり、バッテリーの重量が大きいことから、それ以外の部位を軽くするためにアルミやFRPといった素材が使われています。そのため、ガソリン車では修理で対応できるものが、EV車では部品自体を交換しなければならないこともあり、EV車に対応した評価基準を定める必要があります。また、特に重要なバッテリーの劣化診断については、バッテリー診断装置の開発に取り組んでいます。

## データ

### オートオークション業界における競争力



※ 大手6社：TAA(11.7%)、MIRIVE(5.8%)、CAA(5.1%)、アライAA(5.0%)、JU岐阜(3.1%)、KCAA(2.8%)

出所：株式会社ユーストカー

圧倒的な会員数 **48,490**社  
(2023年3月31日時点)

業界最大手 全国**19**会場を展開

東京・名古屋・HAA神戸など  
**大規模会場**

衛星TV・インターネットを通じた  
**外部落札システム**